第２章　まちの現状と課題

1. 人口・世帯

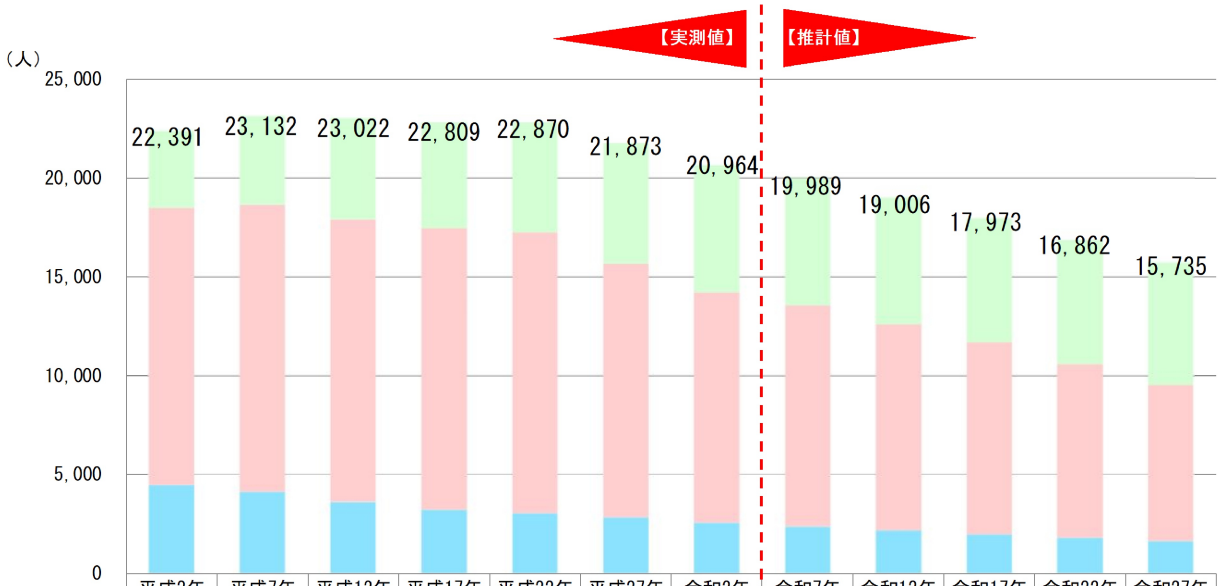
(1) 人口の推移

本町の人口は、平成 7 年の 23,132 人を境に年々減少傾向となっています。また、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）の推計では、今後も人口減少が続き、令和 27 年には、令和 2 年における人口の 75%と予測されています。

令和 27 年の 15 歳未満（年少人口）及び 15 歳～64 歳（生産年齢人口）は、令和 2 年における人口の 67%と予測されています。

令和 27 年の 65 歳以上（老年人口）は、令和 2 年の人口よりも微減になると予測されています。

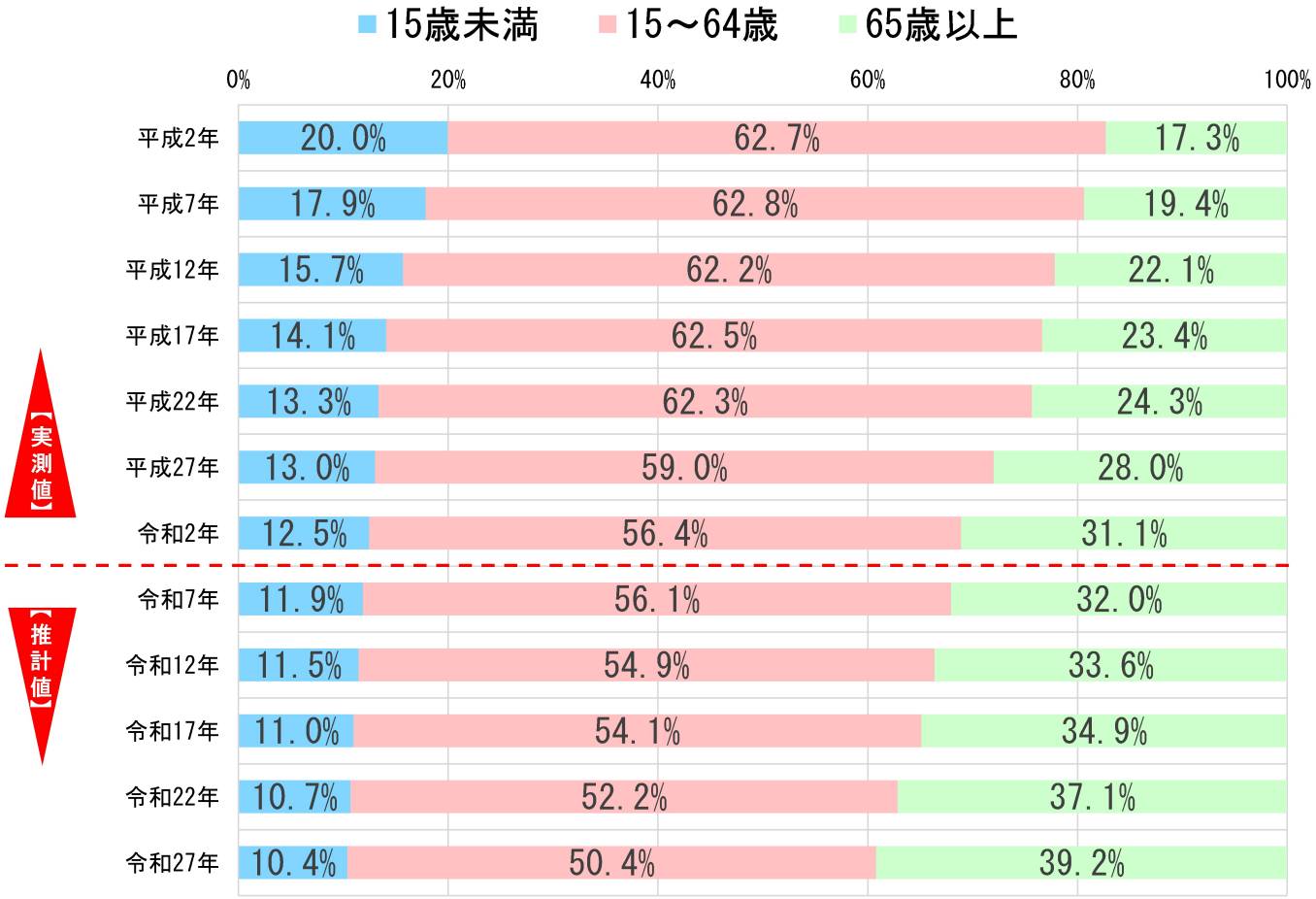
65 歳以上の高齢者の割合（高齢化率）においては、令和 27 年には、39%になると予測されています。



	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年
65歳以上	3,872	4,479	5,095	5,332	5,553	6,088	6,424	6,406	6,387	6,271	6,263	6,163
15～64歳	14,036	14,518	14,311	14,262	14,217	12,840	11,656	11,209	10,442	9,727	8,796	7,937
15歳未満	4,472	4,135	3,613	3,215	3,043	2,835	2,575	2,374	2,177	1,975	1,803	1,635
人口（年齢不詳を含む）	22,391	23,132	23,022	22,809	22,870	21,873	20,964	19,989	19,006	17,973	16,862	15,735

人口の推移

［出典：国勢調査・社人研］



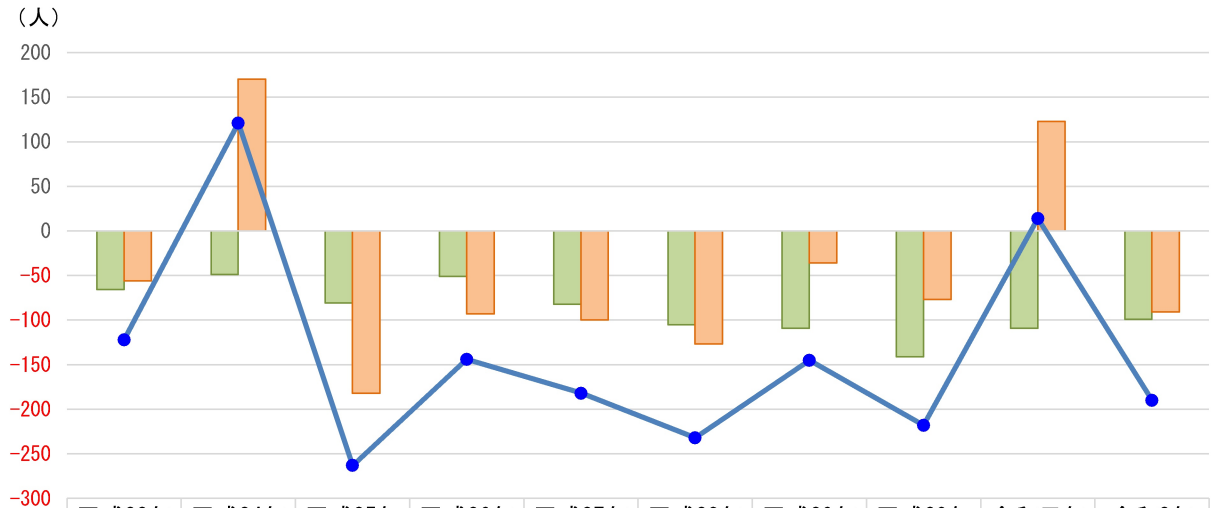
人口推移の割合

［出典：国勢調査・社人研］

(2) 人口動態の推移

本町の自然動態※1 は、直近 10 年間において、一貫して減少しており、今後も減少傾向となることが予想されます。

人口動態としては、減少傾向となっていますが、平成 24 年及び令和元年において、社会動態※2 が増加している年もあります。



	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
自然動態	-66	-49	-81	-51	-82	-105	-109	-141	-109	-99
社会動態	-56	170	-182	-93	-100	-127	-36	-77	123	-91
人口動態	-122	121	-263	-144	-182	-232	-145	-218	14	-190

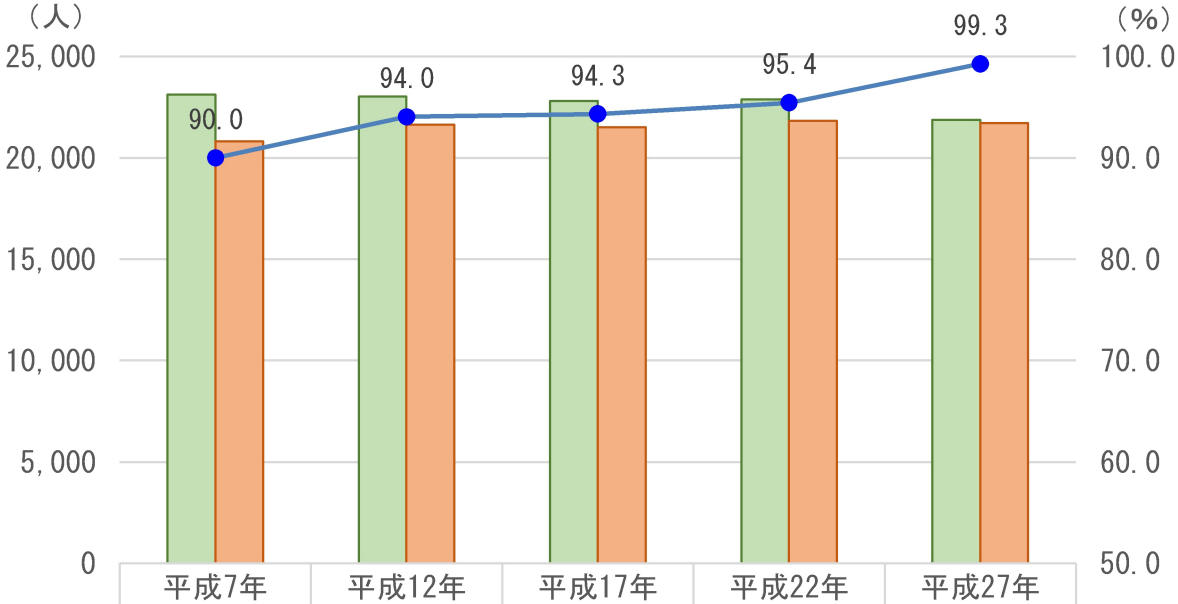
人口動態の推移

［出典：住民基本台帳※3］

※1　自然動態・・出生・死亡に伴う人口の動き
※2　社会動態・・転入・転出に伴う人口の動き
※3　住民基本台帳・・平成 26 年調査から調査期日を 3 月 31 日現在から 1 月 1 日現在に、調査期間を 4 月 1 日～3 月 31 日から 1 月 1 日～12 月 31 日にそれぞれ変更した。

(3) 昼夜間人口

本町の夜間人口は、減少傾向にありますが、昼間人口は、横ばい傾向であるため、昼夜間人口比率は、増加傾向にあります。



	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
夜間人口	23,132	23,019	22,809	22,870	21,873
昼間人口	20,813	21,647	21,510	21,825	21,714
昼夜間人口比率	90.0	94.0	94.3	95.4	99.3

昼夜間人口

［出典：国勢調査］

(4) 通勤・通学の状況

【流入】

本町の平成 7 年から平成 27 年までの 20 年間における通勤･通学の流入状況は、県内他市町では一貫して増加し、県外においても増加傾向にあります。特に、通勤で本町を訪れる人が多く、本町は、近隣市町の就業地としての役割があると考えられます。

通勤・通学の状況【流入】

		平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
県内他市町（人）	通勤（15 歳以上）	2,923	3,980	4,551	4,706	5,339
	通学	316	240	186	214	206
	小計（A）	3,239	4,220	4,737	4,920	5,545
県外（人）	通勤（15 歳以上）	155	249	305	251	307
	通学	0	0	0	3	0
	小計（B）	155	249	305	254	307
流入合計（A+B）（人）		3,394	4,469	5,042	5,174	5,852

［出典：国勢調査］

【流出】

本町の平成 7 年から平成 27 年までの 20 年間における通勤･通学の流出状況は、県内他市町では、平成 17 年まで増加していたものの、それ以降は、緩やかな減少となっています。また、県外では、増減を繰り返していますが、平成 7 年よりも平成 27 年は減少しています。

通勤・通学の状況【流出】

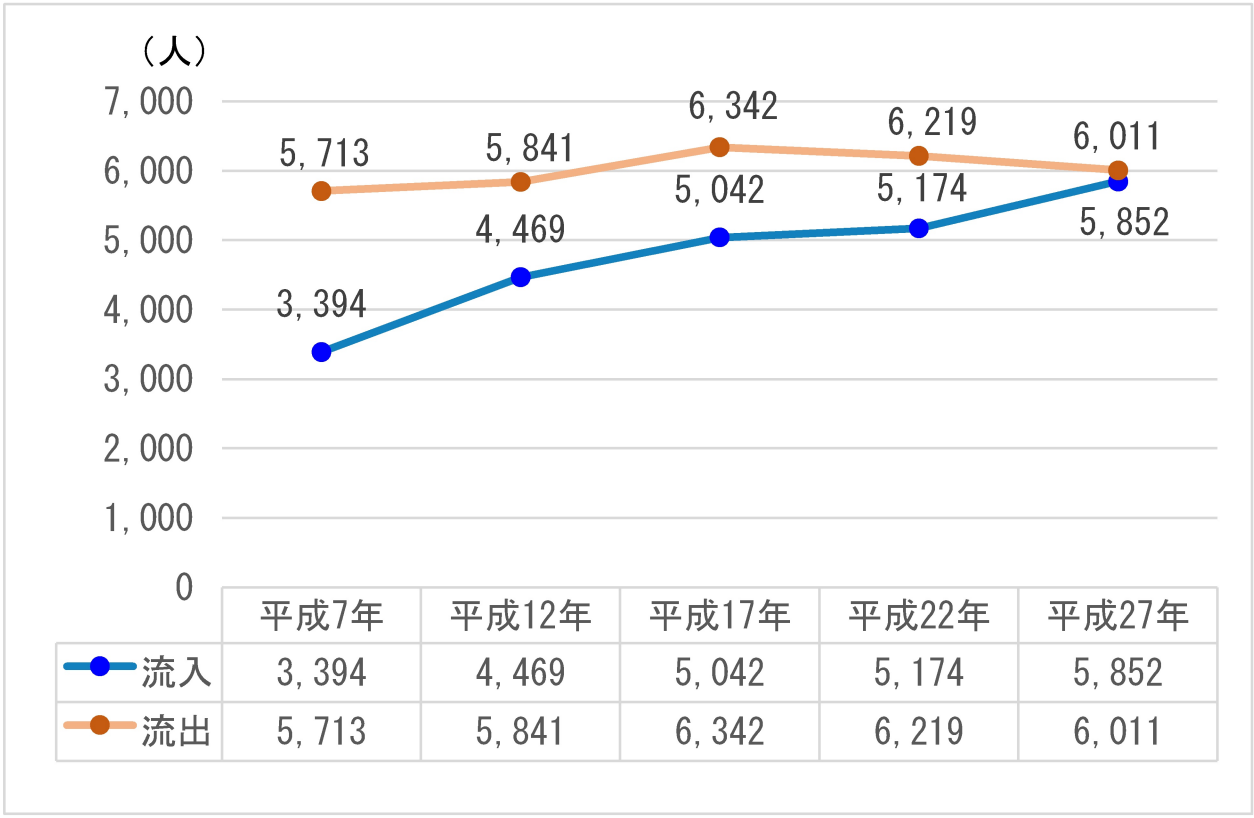
		平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
県内他市町（人）	通勤（15 歳以上）	4,838	4,986	5,396	5,363	5,138
	通学	464	543	583	545	483
	小計（A）	5,302	5,529	5,979	5,908	5,621
県外（人）	通勤（15 歳以上）	258	212	214	169	254
	通学	153	100	149	142	136
	小計（B）	411	312	363	311	390
流入合計（A+B）（人）		5,713	5,841	6,342	6,219	6,011

［出典：国勢調査］

【流入・流出比較】

この 20 年間で流入と流出との差が縮小傾向となっています。

このまま推移した場合、今後の通勤・通学における流入人口が流出人口を上回ることが予想されます。



	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
流入	3, 394	4, 469	5, 042	5, 174	5, 852
流出	5, 713	5, 841	6, 342	6, 219	6, 011

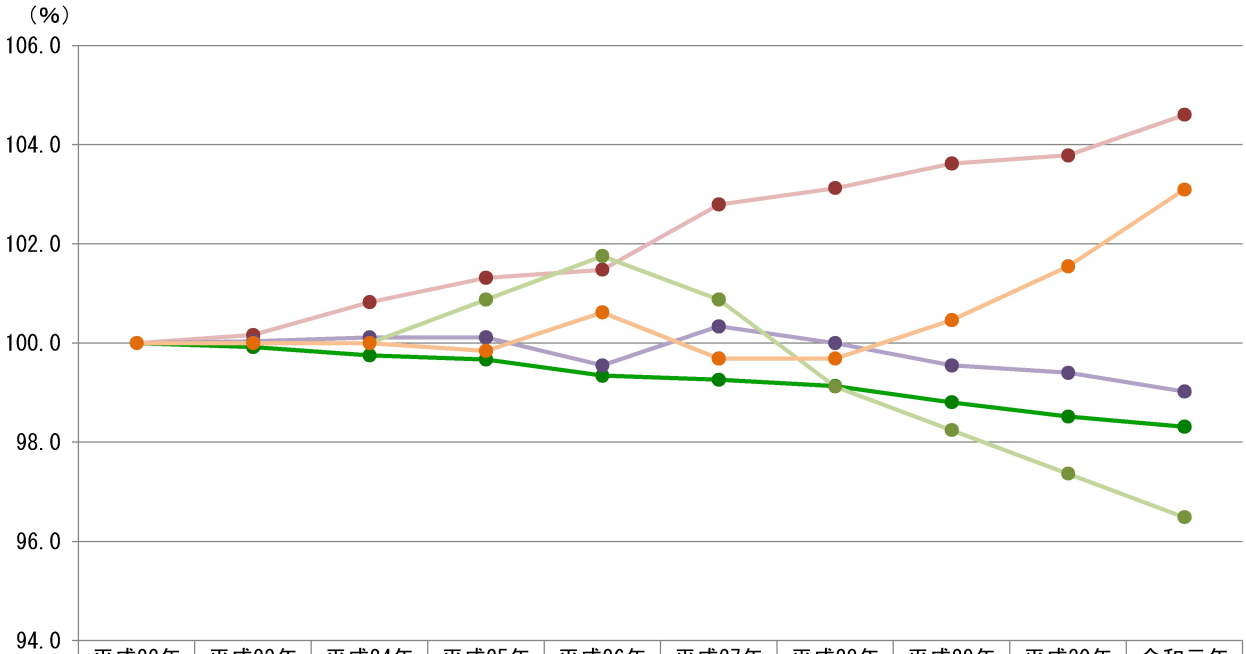
流入・流出の推移【流入・流出比較】

［出典：国勢調査］

2. 土地利用

(1) 土地利用の状況

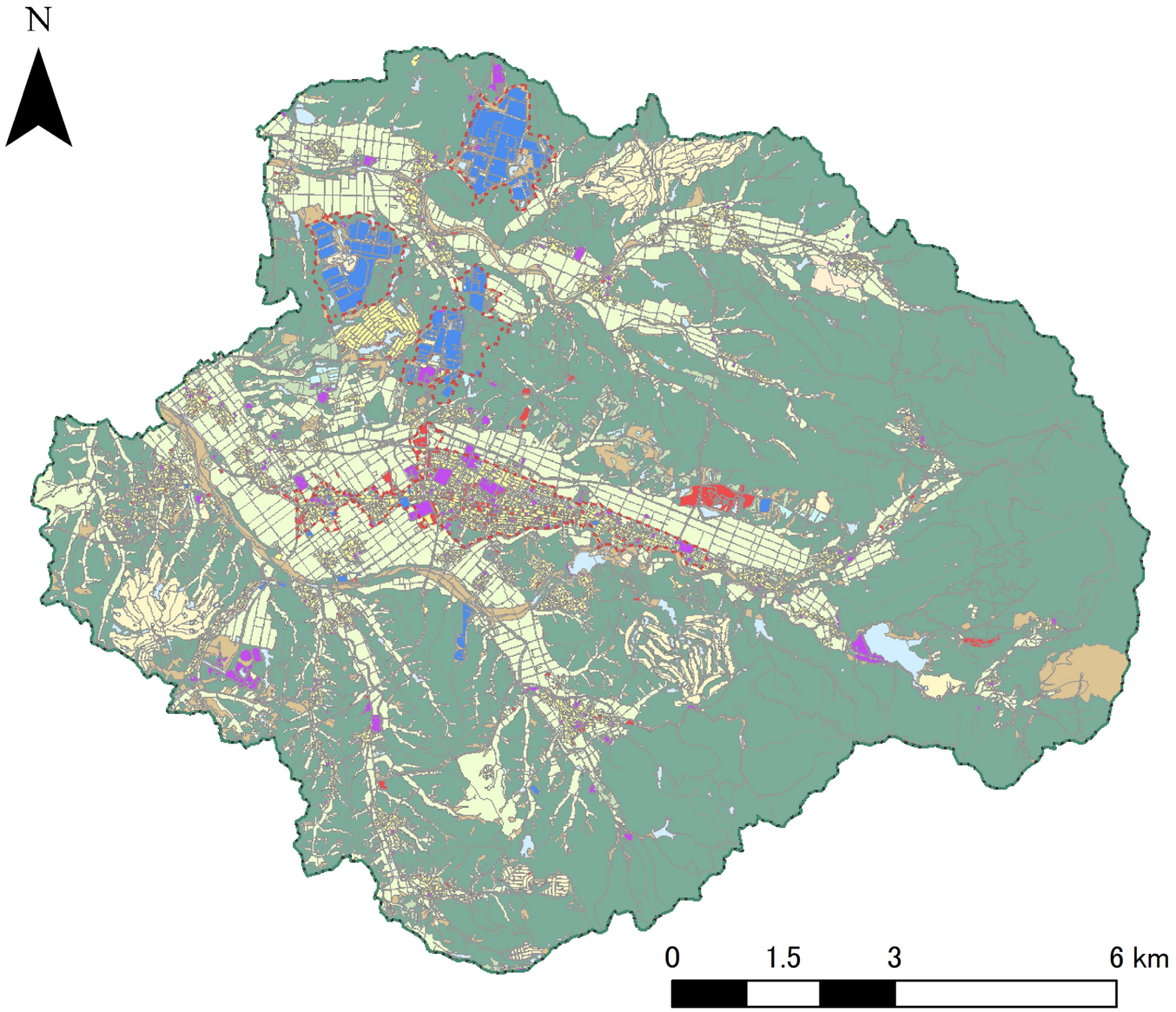
本町の土地利用の変遷は、平成 22 年を基準とした場合、宅地、雑種地は増加傾向、田・畑、山林、原野は減少傾向となっています。



	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
田・畑	100.0	99.9	99.8	99.7	99.3	99.3	99.1	98.8	98.5	98.3
宅地	100.0	100.2	100.8	101.3	101.5	102.8	103.1	103.6	103.8	104.6
山林	100.0	100.0	100.1	100.1	99.5	100.3	100.0	99.5	99.4	99.0
原野	100.0	100.0	100.0	100.9	101.8	100.9	99.1	98.2	97.4	96.5
雑種地	100.0	100.0	100.0	99.8	100.6	99.7	99.7	100.5	101.5	103.1

土地利用の状況の推移

［出典：滋賀県統計書］



土地利用状況図

［出典：都市計画基礎調査］

(2) 市街地整備の状況

【土地区画整理事業】

本町の市街地整備事業としては、昭和 57 年以降に 3 地区の土地区画整理事業を行っています。これらは全て市街化区域内で行われています。

市街地整備の状況【土地区画整理事業】

No	事業地区名	都市計画決定	事業主体	施行区域	整備済	区域決定	事業認可	施行期間	市街化区域に含まれる
				面積					
		有･無		(ha)	(ha)	(年月日)	(年月日)	(年度)	有･無
1	日野中部	有	町	40.3	40.3	S56.11.2	S57.10.4	S57～H14	有
2	伊勢街道	無	組合	6.4	6.4	－	H5.10.13	H5～H21	有
3	日野東部	有	組合	24.0	24.0	H5.11.10	H6.2.21	H5～H20	有

[出典：滋賀の都市計画 2019]

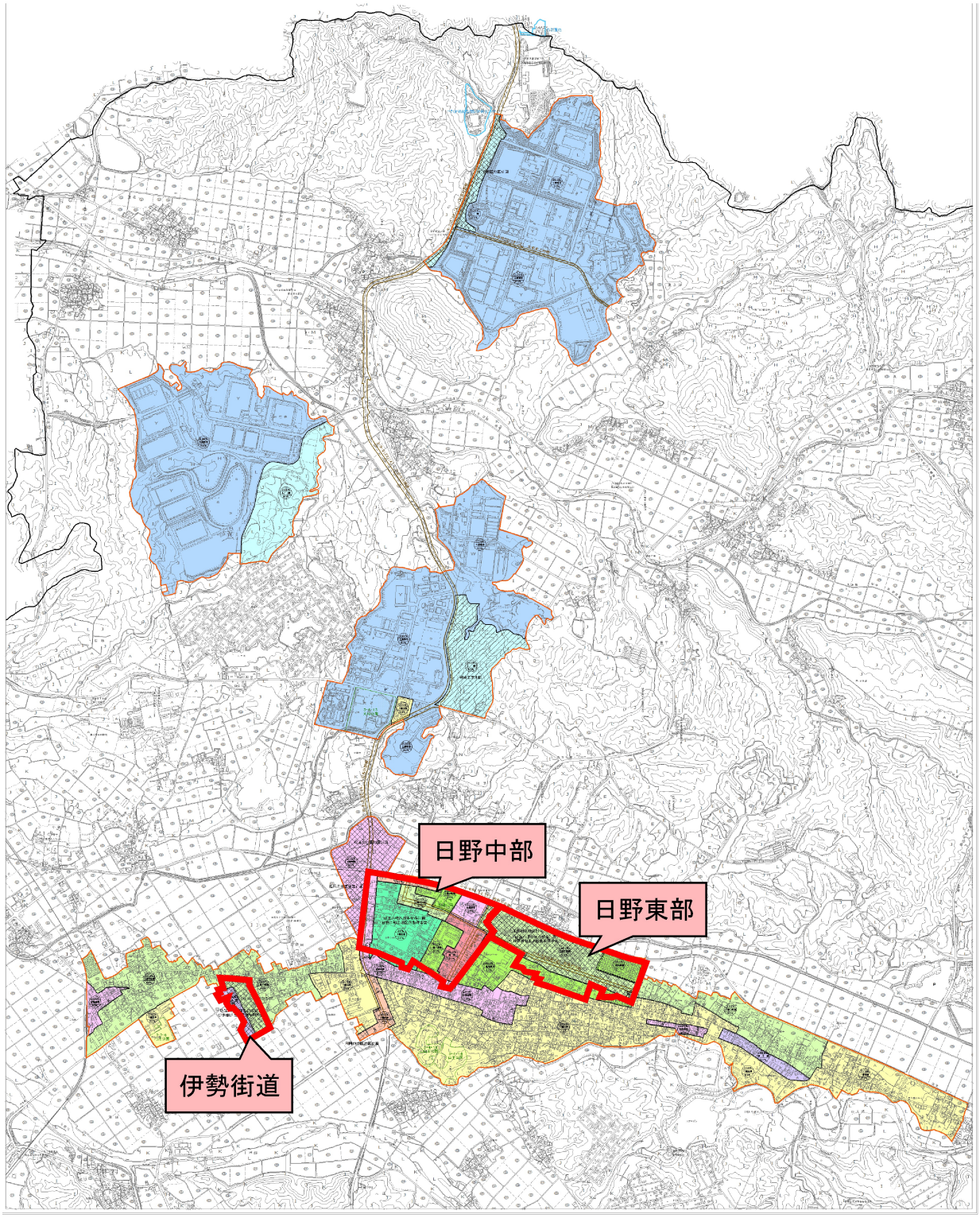


日野中部

[出典：第 6 次日野町総合計画]



日野東部



市街地整備の状況

［出典：建設計画課］

(3) 開発許可の状況

平成 22 年度から令和 2 年度の開発許可の状況は、市街化区域内では、工業用地としての開発が多く行われています。また、市街化調整区域では、主に住宅用地としての開発が行われています。

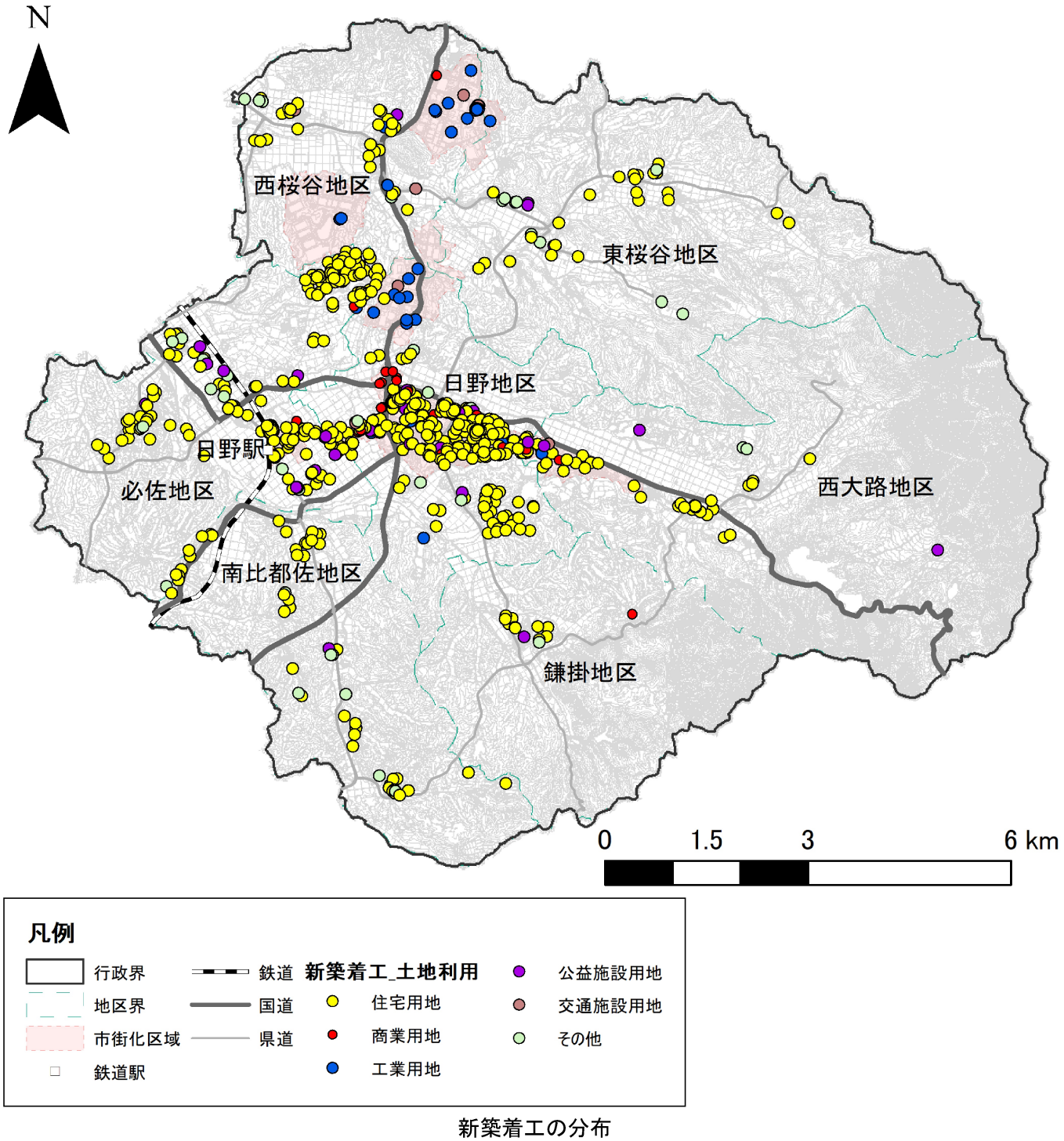
開発許可の状況

区域	年度	住宅用地		商業用地		工業用地		公益施設用地		その他		合計	
		件数	面積(ha)	件数	面積(ha)	件数	面積(ha)	件数	面積(ha)	件数	面積(ha)	件数	面積(ha)
市街化区域	平成22年度	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.10	0	0.00	1	0.10
	平成23年度	2	0.28	1	4.01	1	0.22	0	0.00	0	0.00	4	4.51
	平成24年度	0	0.00	1	0.86	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.86
	平成25年度	1	0.25	0	0.00	1	0.50	0	0.00	0	0.00	2	0.75
	平成26年度	0	0.00	0	0.00	2	1.42	0	0.00	0	0.00	2	1.42
	平成27年度	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	平成28年度	0	0.00	0	0.00	3	10.53	0	0.00	0	0.00	3	10.53
	平成29年度	1	0.02	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.02
	平成30年度	1	0.14	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.25	2	0.39
	令和元年度	1	0.79	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.79
	令和2年度	1	1.00	0	0.00	4	1.82	0	0.00	0	0.00	5	2.81
	合計	7	2.48	2	4.87	11	14.48	1	0.10	1	0.25	22	22.18
市街化調整区域	平成22年度	2	0.08	0	0.00	1	0.05	0	0.00	0	0.00	3	0.13
	平成23年度	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	平成24年度	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	平成25年度	4	0.10	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	4	0.10
	平成26年度	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	平成27年度	1	0.03	0	0.00	0	0.00	1	0.08	0	0.00	2	0.11
	平成28年度	0	0.00	0	0.00	1	0.16	0	0.00	0	0.00	1	0.16
	平成29年度	2	0.06	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.06
	平成30年度	1	0.05	0	0.00	1	0.17	0	0.00	0	0.00	2	0.22
	令和元年度	1	0.05	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.05
	令和2年度	3	0.09	2	0.34	0	0.00	0	0.00	0	0.00	5	0.43
	合計	14	0.46	2	0.34	3	0.37	1	0.08	0	0.00	20	1.26
都市計画区域	平成22年度	2	0.08	0	0.00	1	0.05	1	0.10	0	0.00	4	0.24
	平成23年度	2	0.28	1	4.01	1	0.22	0	0.00	0	0.00	4	4.51
	平成24年度	0	0.00	1	0.86	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.86
	平成25年度	5	0.35	0	0.00	1	0.50	0	0.00	0	0.00	6	0.85
	平成26年度	0	0.00	0	0.00	2	1.42	0	0.00	0	0.00	2	1.42
	平成27年度	1	0.03	0	0.00	0	0.00	1	0.08	0	0.00	2	0.11
	平成28年度	0	0.00	0	0.00	4	10.68	0	0.00	0	0.00	4	10.68
	平成29年度	3	0.08	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	3	0.08
	平成30年度	2	0.19	0	0.00	1	0.17	0	0.00	1	0.25	4	0.60
	令和元年度	2	0.84	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	0.84
	令和2年度	4	1.09	2	0.34	4	1.82	0	0.00	0	0.00	10	3.25
	合計	21	2.94	4	5.21	14	14.86	2	0.19	1	0.2464	42	23.44

[出典：建設計画課]

(4) 新築着工の推移

市街化調整区域では、国道や県道周辺で住宅用地として新築着工が行われています。それ以外には、必佐地区の湖南サンライズや日野地区の椿野台・五月台、南比都佐地区の曙団地等の住宅用地において、新築着工が行われています。



新築着工の分布

［出典：都市計画基礎調査］

(5) 空家数

令和元年度に行った空家等実態調査において、最も空家数が多い地区は日野地区で 210 戸、次いで必佐地区が 141 戸となっています。この 2 地区で本町の空家数の半数以上を占めています。

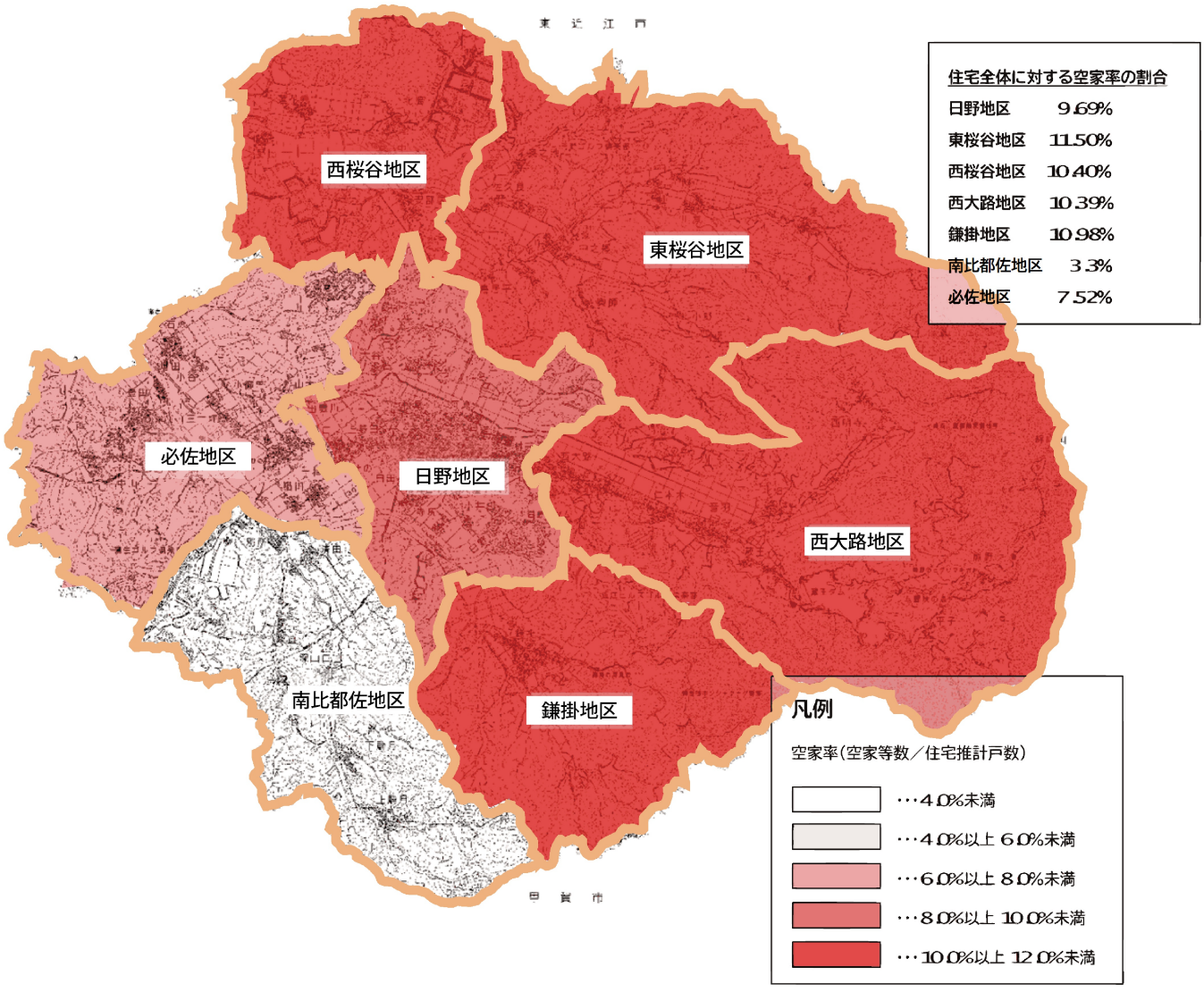
空家ごとに建物構造や外観調査等からA判定～D判定の 4 段階で評価を行い、すぐに入居可能な空家であるA判定は、209 戸となっています。

空家数

地区	空家の数	すぐに入居可能 (A)	入居するには修繕を要する (B)	放置すると倒壊の危険有 (C)	倒壊の危険性有 (D)
	（戸）	（戸）	（戸）	（戸）	（戸）
日野	210	95	72	29	14
東桜谷	58	21	16	16	5
西桜谷	39	9	19	5	6
西大路	61	19	27	13	2
鎌掛	27	17	3	5	2
南比都佐	21	12	4	5	0
必佐	141	36	57	32	16
合計	557	209	198	105	45

[出典：日野町空家等対策計画]

住宅全体に対する空家率は、東桜谷地区が最も高く 11.50%、次いで鎌掛地区が 10.98%となっています。また、最も空家率が低い地区は、南比都佐地区の 3.30%となっています。



空家率の分布

［出典：日野町空家等対策計画］